

東坂下高齢者在宅サービスセンター

症例概要 利用者：80代 要介護2
利用期間：令和5年5月初旬～6月現在 利用継続中
既往：聴覚障害 圧迫骨折（R4.9）乳がん（R5.1全摘出） 甲状腺腺腫

経過：幼少期は聴覚があったものの、以後聴覚障害にて全く聞こえなくなる。そのことがコンプレックスとなっており、常に被害妄想が見受けられた。HDS-R15点と、認知機能の低下もあり、他デイを利用するも人間関係構築が難しくすぐに終了。今年の4月も週2回、他デイを利用するが、孤立してしまう。小規模で手厚いケアのできる当デイサービスへ依頼があり、利用開始となる。

本来あるはずの社会性の場を設定し、輝きのあるデイサービスでの生活を送る事で、ご本人らしさを取り戻すことが出来た症例。

内 容

利用初日は筆談にて会話を開始する。会話途中、ご本人が手話を使いだされる様子が見受けられ、裏紙を使用していたものの「紙がもったいない」と気遣い頂ける話もあった。ただ聞こえないことへのストレスは大きく、感情的になるなど他者へのコミュニケーションが取れないことに苛立ちを覚えることも顕著であった。少人数とはいえど、集団処遇の中では関りを作ることは困難であると判断し、各職員が関わりの中で発見した情報を取り纏め、下記の個別対応を実施することとする。

①環境面

・筆談用のホワイトボード準備

②職員は簡単な手話の習得「挨拶・覚えた・ありがとうetc」

舟渡デイで手話のできる職員を集中的に通所日にジョブローテし、ご本人への関りと、職員への手話指導を行う。

③手話コーラス活動の展開

従来、東坂下デイは認知症対応型通所介護であったため、導入していなかった舟渡デイ活動「手話コーラス」を横展開する。（地域密着型デイへの転換により、活動を楽しめるご利用者が増えてきたため）

ジョブローテでの舟渡デイ職員による実施にすることで、スムーズに導入でき
定着する。またご本人には、講師的な役割をになって頂くことで、他のご利用
者との関係性の構築や、「役割」であると認識して頂けるようになる。

舟渡デイ職員のジョブローテーションや地域密着デイへの事業転換が、ご本人のやりがいやデイサー
ビスでの居場所を作ることへ繋がりました。また、ご本人の誕生会の際、職員・他ご利用者による「誕
生日おめでとう」の手話でお祝いすると、感極まりとても喜ばれておりました。東坂下デイはご本人にとっ
て間違いなく「居場所」となり、毎回欠席することもなく、ご本人からは利用日を増やす要望が聞かれて
おります。

ご利用には輝きの1日を、ご家族には安心を超えた感動、職員にはやりがいと成長の場という健育会
のビジョンに沿う事ができたこの症例は、キラキラ介護賞に値すると考え推薦させていただきます。